市原市江子田遺跡

－ 千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事(二期工事)に伴う埋蔵文化財調査報告書 －

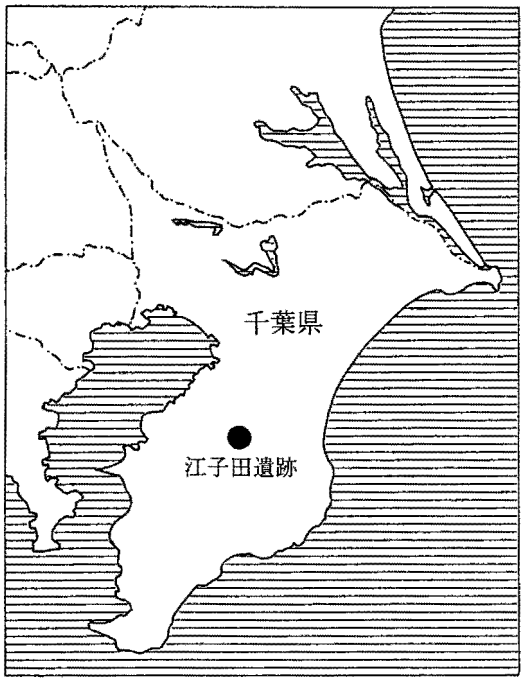
平成17年 3 月

千　葉　県　教　育　委　員　会

財団法人　千葉県文化財センター

市原市江子田（いちはらしえこだ）遺跡

― 千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事(二期工事)に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―



序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第516集として，千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事（二期工事）に伴い発掘調査を実施した江子田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

市原市江子田地区は江子田遺跡をはじめ多くの遺跡が所在し、古くから注目をされてきた場所です。今回の調査では，古墳時代の竪穴住居跡が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月

財団法人千葉県文化財センター

理事長　清水新次

凡　　例

1　本書は，千葉県教育委員会による千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事（二期工事）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は下記のとおりである。

江子田遺跡　　千葉県市原市江子田字小台305-2ほか　（遺跡コード　219-083）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県教育委員会の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の組織，担当者及び実施期間は，第１章に記載したとおりである。

5　本報告書の執筆・編集は，主席研究員相京邦彦が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県立市原園芸高等学校、市原市教育委員会、市原市下水道課、千葉県教育庁企画管理部施設課、千葉県教育庁教育振興部文化財課の御指導・御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　　1/50,000地形図「姉崎」　　（NI-54-19-16）

第２図　市原市役所発行　　1/ 2,500地形図Ｋ６　　昭和60年修正

8　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北であり，日本測地系に基づいている。

10　本書で使用した遺構番号は調査時のものを使用し，遺構を示す略称を使用した。

11　遺物の色調については，農林水産省・（財）日本色彩研究所監修，日本色研事業株式会社発行「新版標準土色帖」1988年　掲載の用語を使用した。

12　本書で使用した遺構の略称は以下のとおりである。

ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＤ：溝

13　本書で使用した遺物出土状況の凡例は以下のとおりである

●：土器　　▲：石器

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　　１　調査の経緯……1
　　２　調査の方法と経過……1
　第２節　遺跡の位置と環境……3
　　１　遺跡周辺の地理的環境……3
　　２　遺跡周辺の歴史的環境……3
　第３節　基本層序……5

第２章　検出された遺構と遺物……5
　第１節　検出された遺構……5
　　ＳＩ－００１……5
　　ＳＩ－００２……5
　　ＳＩ－００３……7
　　ＳＩ－００４……7
　　ＳＩ－００５……9
　　ＳＩ－００６……9
　　ＳＩ－００７……9
　　ＳＤ－００１……9
　第２節　出土した遺物……9
　　１　縄文土器……9
　　２　土師器……10
　　３　石器……10

第３章　まとめ……18

報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 ……2
第２図　調査範囲と周辺地形 ……3
第３図　遺構分布図と下層確認調査グリッド …4
第４図　遺構実測図(1) SI001.002.003.004 ……6
第５図　遺構実測図(2) SI005.006.007.SD001 …8
第６図　縄文土器拓影図 ……9
第７図　出土遺物(1)　土器……11
第８図　出土遺物(2)　土器……12
第９図　出土遺物(3)　土器……14
第10図　出土遺物(4)　石器……16

表 目 次

第１表　遺構一覧……5　　第２表　出土遺物観察表……17

図 版 目 次

図版１　江子田遺跡周辺航空写真
図版２　１　調査前全景
　　２　調査後全景
図版３　１　ＳＩ－００１　全景
　　２　ＳＩ－００１　遺物出土状況
　　３　ＳＩ－００２　全景
　　４　ＳＩ－００２　炭化材出土状況
　　５　ＳＩ－００３　全景
　　６　ＳＩ－００３　炭化材出土状況
　　７　ＳＩ－００３　遺物出土状況
　　８　ＳＩ－００３　遺物出土状況
図版４　１　ＳＩ－００４　全景
　　２　ＳＩ－００４　遺物出土状況
　　３　ＳＩ－００４　遺物出土状況
　　４　ＳＩ－００４　遺物出土状況
　　５　ＳＩ－００５　全景
　　６　ＳＩ－００６　全景
　　７　ＳＩ－００７　全景
　　８　ＳＤ－００１　全景
図版５　１　下層確認グリッド
　　２　旧正門跡の門柱
　　３　高圧電線埋設，水道管埋設状況
　　４　高圧電線埋設，水道管埋設状況
　　５　出土遺物　石器
図版６　出土遺物(1)　土器
図版７　出土遺物(2)　土器

第1章　はじめに

第1節　調査に至る経緯

1　調査の経緯

千葉県立市園芸高等学校の裏門として使用している入口は元は正門で，モダンな様式を呈していた。この正門に接する道路は，弧を描く様な形をしている。このため，通行量の増加した現在，通行に支障をきたし，付近住民からは道路拡幅による環境整備を望む声が多くあった。そこで，道路を直線に直し，地域住民の利便を図るとともに，学校周辺の環境整備を行うことになった。

県立市原園芸高等学校が位置するこの富士台丘陵は，江子田古墳群・江子田遺跡が所在する丘陵として古くからその存在が知られ著名な場所であった。そのため，千葉県教育委員会はその取扱いについて千葉県教育庁企画管理部施設課，県立市原園芸高等学校，及び同教育振興部文化財課と慎重な協議を行った。その結果，発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなり，財団法人千葉県文化財センターが委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

発掘調査及び整理作業の担当者と事業内容は以下のとおりである。

発掘調査

調査期間　平成16月10月1日から平成16年10月25日

調査場所　市原市江子田字小台305－2ほか

調査の対象　確認調査　下層　8㎡/260㎡

本調査　上層　260㎡/260㎡

検出遺構　竪穴住居跡　7棟，溝状遺構　1条

組　織　南部調査事務所　所長　高田博　担当職員　主席研究員　相京邦彦

整理作業

調査期間　平成16年10月26日から平成16年11月15日

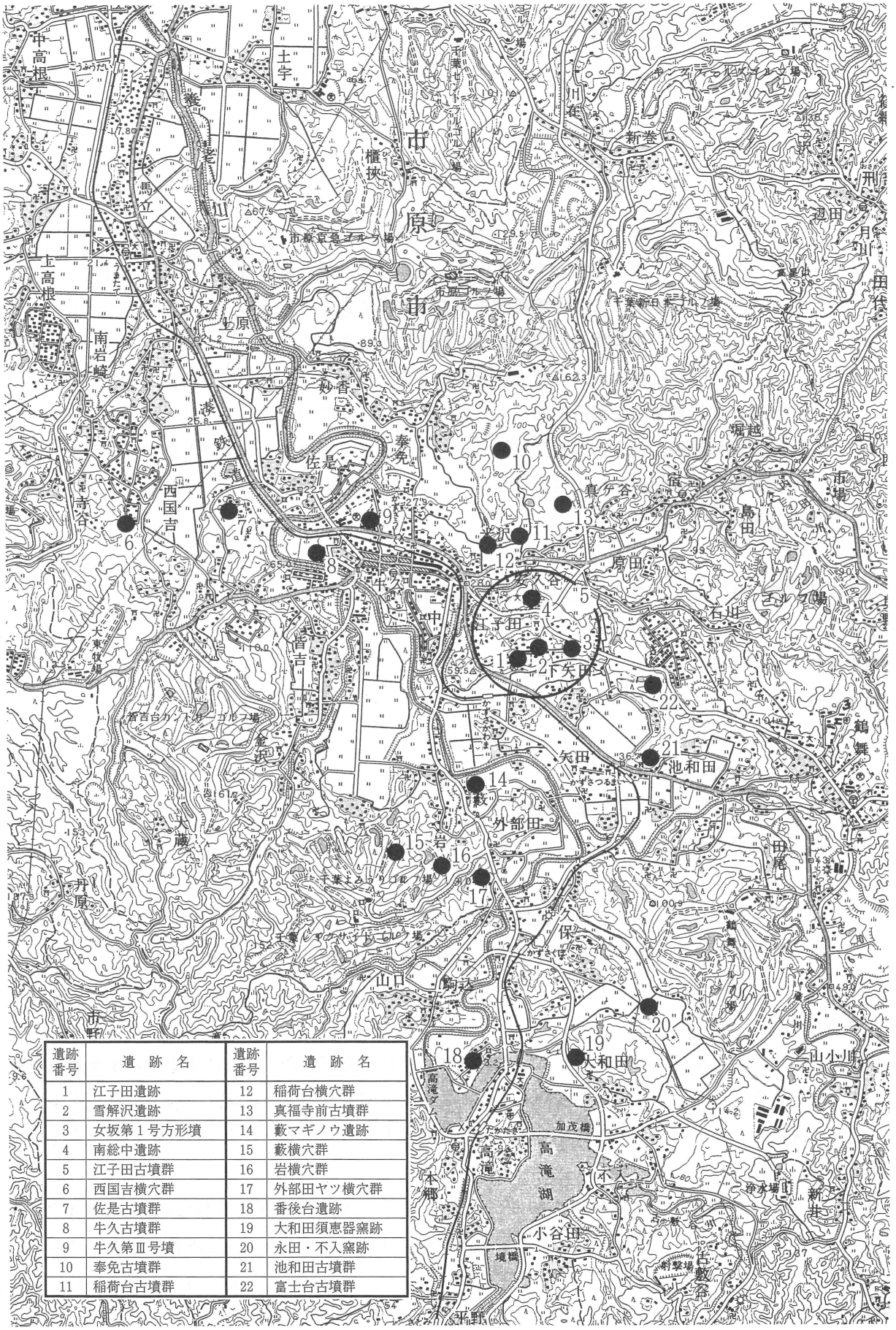
組　織　南部調査事務所　所長　高田博　担当職員　主席研究員　相京邦彦

2　調査の方法と経過

発掘調査は平成16年10月1日に開始し，平成16年10月25日に終了した。調査に先立ち本事業対象範囲全体にグリッドを設定した。今回の道路拡幅工事は，県立市原園芸高等学校に接する現道の拡張工事のためで，学校に隣接している現道全体が調査対象になる可能性もあったため，将来的にはその範囲も含められる様なグリッド設定を行った。

大グリッドは20m×20mで北側から南側にむかって1・2・3区，西側から東側に向かってアルファベットでA・B・C区の大グリッドを設定した。西北隅の大グリッドを「1A」区と呼称し，次を2Aとし，さらに，この大グリッド内に一辺2m×2mの小グリッドを，西端を00とし00から99までの小グリッドを100個設定した。発掘調査は，このグリッドを基本にして遺構の測量および遺物の記録を行った。

遺構の調査と平行して，高圧電線および水道管埋設場所以外で，遺構がなく，ローム層の残存する場所



遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名
1	江子田遺跡	12	稲荷台横穴群
2	雪解沢遺跡	13	真福寺前古墳群
3	女坂第１号方形墳	14	藪マギノウ遺跡
4	南総中遺跡	15	藪横穴群
5	江子田古墳群	16	岩横穴群
6	西国吉横穴群	17	外部田ヤツ横穴群
7	佐是古墳群	18	番後台遺跡
8	牛久古墳群	19	大和田須恵器窯跡
9	牛久第Ⅲ号墳	20	永田・不入窯跡
10	奉免古墳群	21	池和田古墳群
11	稲荷台古墳群	22	富士台古墳群

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

に任意でグリッドを２箇所設定し，下層の確認調査を行ったが遺物の出土はなかった。

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡周辺の地理的環境（第１・２図）

江子田遺跡は牛久の旧市街地を西北方に望む台地上に所在する。本地域は，清澄山系にその源を発する養老川と支流である内田川によって形成された舌状台地上に所在している。本遺跡の所在する台地は富士台丘陵とよばれ，小支谷によって３つの小台地に分かれており，県立市原園芸高等学校はその台地の西端に位置しており，もっとも大きな小台地上に所在する。

２　遺跡周辺の歴史的環境（第１図）

今回調査を実施した江子田遺跡は，1969年１月に水道管埋設作業およびその後行われたトレンチ調査によって遺物が得られている。学校施設の整備の一環として1984年には（財）千葉県文化財センターによっ

第２図　調査範囲と周辺地形（1/2,500）

て「雪解沢遺跡」として今回の調査区の東方約200ｍの地点が調査されている。また，平成16年７月には市原市埋蔵文化財センターによって宅地開発に伴う発掘調査が北方50ｍの地点で行われている。この調査では，古墳時代の竪穴住居跡が調査されている。北方約１㎞にある南総中学校敷地では，昭和46・47年にかけて発掘調査が行われている。縄文時代の竪穴住居跡，弥生時代中期の竪穴住居跡および方形周溝墓，古墳時代竪穴住居跡，古墳が調査され，調査報告書が刊行されている。この報告書の中で，今回の調査箇所の北側にある住宅地と思われる場所から出土した旧石器時代の遺物の報告がされている。しかし，この報告書からでは調査地点および調査の詳細は不明である。また，東方１㎞の所には女坂第１号方形墳が所在している。これらのことから本地域は旧石器時代から古墳時代にかけての集落と古墳が，台地全面に所在していることが知られる。

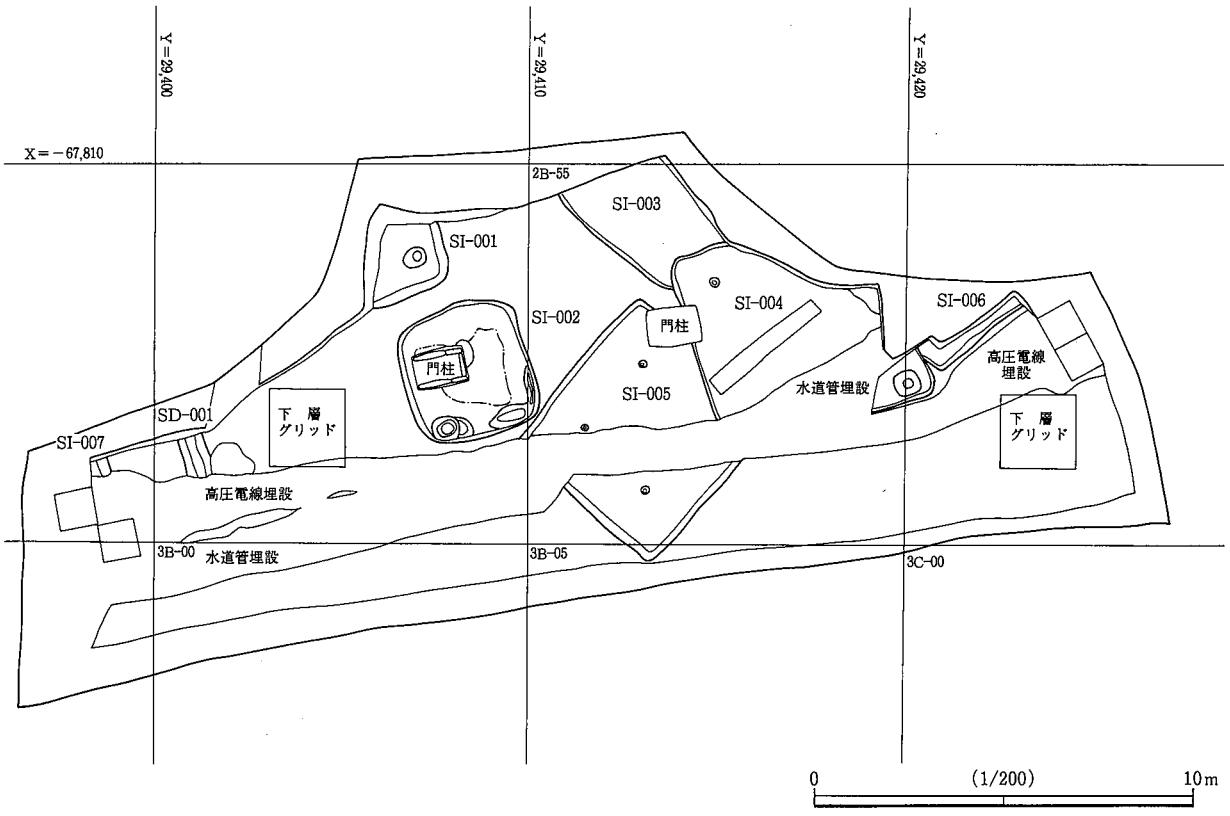
注

1　「雪解沢土器群発掘概報」鶴舞高雪解沢　1970.11
　「市原市久保台・雪解沢遺跡発掘概報」　鶴舞高校郷土史クラブ　1971.1

2　金丸　誠　　1984　『市原市雪解沢遺跡』　千葉県立市原園芸高等学校・(財)千葉県文化財センター

3　倉田　芳郎他　1978　『千葉・南総中学校』先史10　市原市教育委員会

4　武田　宗久　　1969　3　「上総国女坂第１号方形墳」『南総郷土文化研究会叢書』第９巻　南総郷土文化研究会



第３図　遺構分布と下層確認グリッド

第３節　基本層序

ＳＩ－００１とＳＩ－００３は，遺構の一部が調査区外につづき，現表土層から遺構床面までの土層堆積状況が観察できた。その結果判明した調査区内の基本層序は以下の通りである。

１層：表土層　　現在の表土層で，整地した後に黒土を入れている。芝草で覆われている。

２層：表土層　　小石，がれきを主体とした層で，旧校舎を取り壊したがれきを埋め込んだ層。

３層：表土層　　小石，山砂を多量に含み，旧正門の建設時に近い頃の整地面。

４層：黒色土層　締まりがある。学校設立時の表土層と推定される。

５層：黒色土層　ロームとローム粒を少量含む層。

６層：黒褐色土層　ロームを多く含む層。

Ⅲ層：７層：明黄褐色土　立川ローム層最上部に該当する。

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　検出された遺構

ＳＩ－００１（第３・４・７図，図版３・６）

２Ｂ-63に位置する竪穴住居跡である。約1/5が調査された。調査範囲から検出されたピットは，ＳＩ－００４を参考にすると貯蔵穴と思われる。東西2.2ｍ×南北２ｍが調査できた。現地表面からの深さは約１ｍを計る。貯蔵穴は0.62ｍ×0.55ｍ，深さ0.783ｍを計り，貯蔵穴としては深い。竪穴住居跡のほとんどの部分が調査区外にあり，住居跡の一部しか調査できなかった。本遺跡の他の竪穴住居跡に比べて，覆土中からの遺物の出土量が特に多く，検出された貯蔵穴脇からはほぼ完形の遺物が出土している。

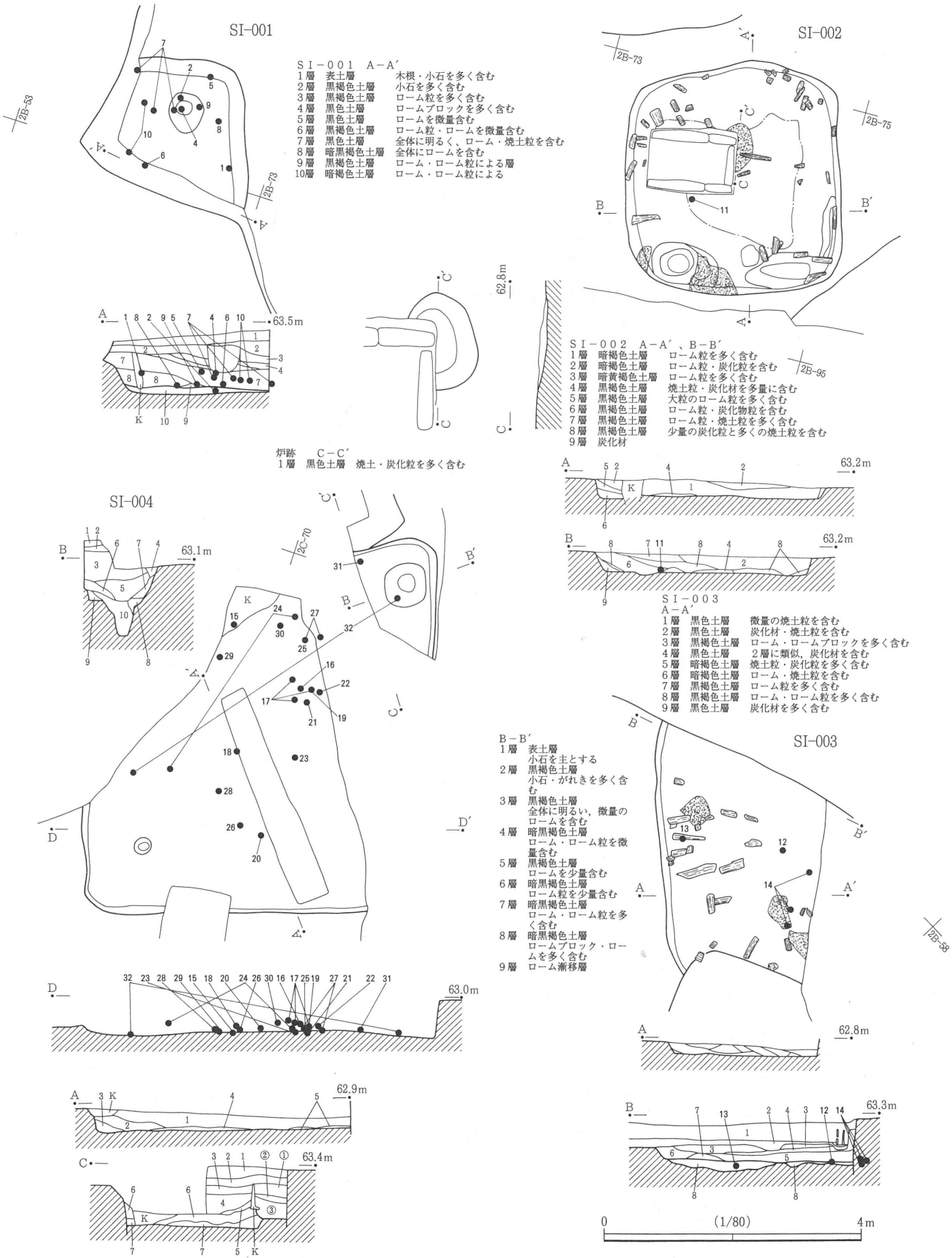
土層断面Ａ-Ａ′の第１層は旧正門入口に向かって埋土が傾斜している。第３層は旧正門建設時に削平した痕跡と思われる。住居跡の覆土は第４層から下位と思われる。平面の観察と土層断面からみると壁溝は確認されない。また，覆土中からは焼土粒および炭化材の出土はなかった。

ＳＩ－００２（第３・４・８図，図版３・６）

２Ｂ-73付近から検出された。竪穴住居跡の中央部に，旧正門の門柱の片方の基礎部が残存しているが，唯一全形がわかる住居跡である。門柱は基礎をコンクリートで造り，その上に大谷石と思われる切石で造

第１表　江子田遺跡遺構一覧

No.	挿図	遺構番号	種　類	時　代	グリッド	その他	主軸	短軸	深さ	柱穴	貯蔵穴
1	4	SI－001	竪穴住居跡	古墳時代後期	2B-63	貯蔵穴あり	(2.2)	(2)	1	1	
2	4	SI－002	竪穴住居跡	古墳時代前期	2B-73	貯蔵穴あり	3.64	3.36	0.38		1
3	4	SI－003	竪穴住居跡	古墳時代前期	2B-56		(3.7)	(2.5)	0.6		
4	4	SI－004	竪穴住居跡	古墳時代後期	2B-79	貯蔵穴あり	(5.8)	(5.45)	(0.85)	1	
5	5	SI－005	竪穴住居跡	古墳時代後期	2B-85		(5)	(5)	0.3		
6	5	SI－006	竪穴住居跡	古墳時代後期	2C-70		－	－	0.9	3	
7	5	SI－007	竪穴住居跡	古墳時代後期	2A-79		－	－	0.55		
8	5	SD－001	溝	古代	2B-70		(1)	(0.64)	0.1		



SI－001　A－A′
1層　表土層　木根・小石を多く含む
2層　黒褐色土層　小石を多く含む
3層　黒褐色土層　ローム粒を多く含む
4層　黒色土層　ロームブロックを多く含む
5層　黒色土層　ロームを微量含む
6層　黒褐色土層　ローム粒・ロームを微量含む
7層　黒色土層　全体に明るく、ローム・焼土粒を含む
8層　暗黒褐色土層　全体にロームを含む
9層　黒褐色土層　ローム・ローム粒による層
10層　暗褐色土層　ローム・ローム粒による

炉跡　C－C′
1層　黒色土層　焼土・炭化粒を多く含む

SI－002　A－A′、B－B′
1層　暗褐色土層　ローム粒を多く含む
2層　暗褐色土層　ローム粒・炭化粒を含む
3層　暗黄褐色土層　ローム粒を多く含む
4層　黒褐色土層　焼土粒・炭化材を多量に含む
5層　黒褐色土層　大粒のローム粒を多く含む
6層　黒褐色土層　ローム粒・炭化物粒を含む
7層　黒褐色土層　ローム粒・焼土粒を多く含む
8層　黒褐色土層　少量の炭化粒と多くの焼土粒を含む
9層　炭化材

SI－003
A－A′
1層　黒色土層　微量の焼土粒を含む
2層　黒色土層　炭化材・焼土粒を含む
3層　黒褐色土層　ローム・ロームブロックを多く含む
4層　黒色土層　2層に類似，炭化材を含む
5層　暗褐色土層　焼土粒・炭化粒を多く含む
6層　暗褐色土層　ローム・焼土粒を含む
7層　黒褐色土層　ローム粒を多く含む
8層　黒褐色土層　ローム・ローム粒を多く含む
9層　黒色土層　炭化材を多く含む

B－B′
1層　表土層　小石を主とする
2層　黒褐色土層　小石・がれきを多く含む
3層　黒褐色土層　全体に明るい，微量のロームを含む
4層　暗黒褐色土層　ローム・ローム粒を微量含む
5層　黒褐色土層　ロームを少量含む
6層　暗黒褐色土層　ローム粒を少量含む
7層　暗黒褐色土層　ローム・ローム粒を多く含む
8層　暗黒褐色土層　ロームブロック・ロームを多く含む
9層　ローム漸移層

第4図　遺構実測図（1）

ＳＩ－００４
Ａ－Ａ′
１層　黒褐色土層　全体に焼土粒・炭化物粒を含む
２層　暗褐色土層　炭化物粒・焼土粒を含む
３層　暗褐色土層　ローム粒・ロームブロックを少量含む
４層　暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒に炭化物粒を多く含む
５層　黄褐色土層　ローム粒を主として炭化物粒を含む

Ｂ－Ｂ′
１層　表土層　木根・小石を多く含む
２層　表土層　小石・砂を主とする
３層　黒褐色土層　微量のローム粒を含む
４層　暗褐色土層　ローム粒・ロームブロックを多く含む
５層　黒褐色土層　ローム粒を多く含む
６層　黒褐色土層　ローム粒・焼土粒を多く含む
７層　黒褐色土層　ローム粒・ロームブロックを含む
８層　暗黄褐色土層　ローム粒・ロームブロックによる層で暗褐色土粒を含む
９層　明黒褐色土層　砂質で，ローム粒を多く含む
10層　黒褐色土層　炭化材・焼土粒を含む

られている。最下基壇の一部も残存していた。また，門柱と重複する形で炉跡が検出された。炉跡の位置を主軸とすると南北3.64ｍ×東西3.36ｍ，深さは検出面から約0.38ｍを計る。東南隅には溝状の落ち込みがある。また，西南隅には貯蔵穴と思われるピットが見られる。貯蔵穴は２段の掘込みがされている。長軸1.1ｍで，内側の掘込みは南北約0.6ｍ×東西0.74ｍ，深さ0.38ｍを計る。炉跡は長軸0.75ｍ，短軸は約0.6ｍである。炉の覆土は焼土粒を多く含む程度で，焼土層の堆積はほとんどみられなかった。住居跡中央部には硬化した範囲が確認された。

覆土中からは多量の炭化材と焼土が出土した。炭化材はほとんどが長さ0.3ｍ前後で，それ以上長い炭化材は残存していなかった。ＳＩ－００２はＳＩ－００５とともに旧正門の位置にあり，長年の道路使用によって覆土まで堅くしまっていた。

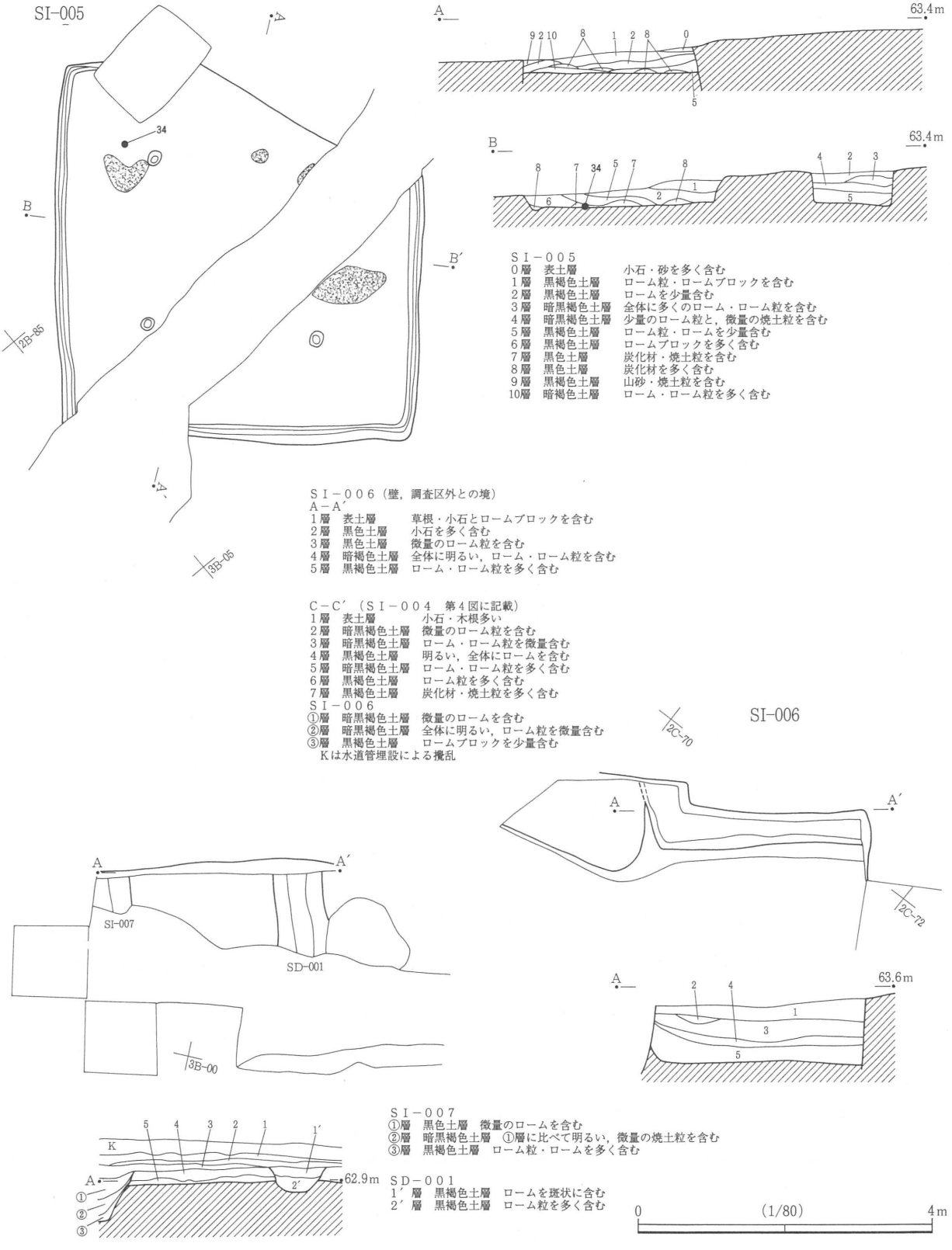
ＳＩ－００３（第３・４・８図，図版３・６）

２Ｂ-56を中心としたグリッドから検出された。ＳＩ－００４によって切られている。北側および東側は調査区外につづき，竪穴住居跡の約1/3が残存していると思われる。柱穴，ピットおよび貯蔵穴は検出されなかった。検出した範囲は最も長いところで南北3.7ｍ，東西2.5ｍを計る。現地表面からの深さは約0.6ｍである。土層断面Ｂ－Ｂ′によると旧正門使用時の地表面が第２層上面と推定され，竪穴住居跡の掘込みの深さは約0.3ｍと推定され浅い。このことから旧正門位置は当時の表土面を削平して建設されたものと推定される。覆土中からは炭化材および焼土が多量に出土した。炭化材はほとんどが中央部（調査区外方向）に向かって倒れ込んだ状況で検出された。しかし，一部に壁に平行する形で出土された炭化材もみられた。調査範囲からは炉跡は検出されなかったが，土層断面のポイントＡ′の下部分の床面に堆積した覆土の観察から，炉跡が近くにあることが推定された。土層断面Ｂ－Ｂ′によると，壁溝が巡っている様子が観察される。床は割に深く，第８層が掘方の埋土と思われ，第８層の上面が床面と思われる。Ｂ－Ｂ′の観察と調査開始時の観察から，当初は正門入り口には八字状にブロックによる区画がされており，その先端（学校内）に門柱が左右に建っていたものと推定される。その後正門の移動に伴って入口付近に盛土をおこない現況に近い状況になったものと推定される。建物の出土は少なかった。

ＳＩ－００４（第３・４・９図，図版４・６・７）

２Ｂ-79を中心として調査された。竪穴住居跡全体の約1/2が調査されたが，北東側は調査区外に，南側については高圧電線埋設および水道管が埋設されているために調査はできなかった。また，中央部には高圧電線埋設工事の時に，水道管の移設に伴い水道管の位置を探すために掘られたと思われる機械による掘削痕がある。西側の壁には旧正門にあった門柱の一方が残存している。

竪穴住居跡はＳＩ－００３を切り，ＳＩ－００６によって切られている。西側でＳＩ－００５を切っている。また，東側の一部は抜根による攪乱を受けている。発掘調査は北西隅と南東隅を含む範囲が調査されたことになる。この結果，竪穴住居跡の規模は東西に主軸をもつと推定される。残存長は東西5.05ｍ，



ＳＩ－００５
０層　表土層　　小石・砂を多く含む
１層　黒褐色土層　ローム粒・ロームブロックを含む
２層　黒褐色土層　ロームを少量含む
３層　暗黒褐色土層　全体に多くのローム・ローム粒を含む
４層　暗黒褐色土層　少量のローム粒と，微量の焼土粒を含む
５層　黒褐色土層　ローム粒・ロームを少量含む
６層　黒褐色土層　ロームブロックを多く含む
７層　黒色土層　炭化材・焼土粒を含む
８層　黒色土層　炭化材を多く含む
９層　黒褐色土層　山砂・焼土粒を含む
10層　暗褐色土層　ローム・ローム粒を多く含む

ＳＩ－００６（壁，調査区外との境）
Ａ－Ａ′
１層　表土層　　草根・小石とロームブロックを含む
２層　黒色土層　小石を多く含む
３層　黒色土層　微量のローム粒を含む
４層　暗褐色土層　全体に明るい，ローム・ローム粒を含む
５層　黒褐色土層　ローム・ローム粒を多く含む

Ｃ－Ｃ′（ＳＩ－００４　第４図に記載）
１層　表土層　　小石・木根多い
２層　暗黒褐色土層　微量のローム粒を含む
３層　暗黒褐色土層　ローム・ローム粒を微量含む
４層　黒褐色土層　明るい，全体にロームを含む
５層　暗黒褐色土層　ローム・ローム粒を多く含む
６層　黒褐色土層　ローム粒を多く含む
７層　黒褐色土層　炭化材・焼土粒を多く含む

ＳＩ－００６
①層　暗黒褐色土層　微量のロームを含む
②層　暗黒褐色土層　全体に明るい，ローム粒を微量含む
③層　黒褐色土層　ロームブロックを少量含む
Ｋは水道管埋設による攪乱

ＳＩ－００７
①層　黒色土層　微量のロームを含む
②層　暗黒褐色土層　①層に比べて明るい，微量の焼土粒を含む
③層　黒褐色土層　ローム粒・ロームを多く含む

ＳＤ－００１
1′層　黒褐色土層　ロームを斑状に含む
2′層　黒褐色土層　ローム粒を多く含む

第５図　遺構実測図（２）

南北4.3m，現地表面からの深さ0.85mを計る。残存状況から推定すると，東西5.8m，南北5.45mほどと推定される。炉跡は検出されなかったが，竪穴住居跡の形状や貯蔵穴の位置から炉跡は北側の未調査地に所在すると推定される。貯蔵穴は0.65m×0.7m，深さ約0.6mである。壁溝は確認されず，壁は緩やかに立ち上がる。遺物は住居跡全域から出土しており，床面から近い位置から出土している。

ＳＩ－００５（第３・５・９図，図版４・７）

２Ｂ-85を中心として検出された。今回の発掘調査ではもっとも大型の竪穴住居跡である。中央部に高圧電線と水道管の埋設がされており，また，北東には旧正門の門柱の一方がある。ＳＩ－００４によって切られている。炉跡は確認されなかった。壁溝らしき溝が全周する。柱穴は３本が検出された。残り１本は高圧電線埋設によって攪乱を受け残存していないと推定される。竪穴住居跡は主軸を東北から南西にとる。長軸約５m，短軸約５mでほぼ正方形をしている。検出面からの深さは0.3mである。覆土中からは小破片化した炭化材片と焼土ブロックが出土している。本住居跡は旧正門と校舎を結ぶ直線位置にあり，長年にわたって道路として使用されていた範囲で，表土層から遺構覆土まで堅く締まっていた。

ＳＩ－００６（第３・５図，図版４）

２Ｃ-70から検出された。南側壁の一部だけの調査で，他の部分は調査区外へ続いている。ＳＩ－００４を切る。狭い範囲であるが，堆積している覆土から竪穴住居跡と推定した。遺物は土師器の破片が数片出土したのみであった。

ＳＩ－００７（第３・５図，図版４）

２Ｃ-79から検出された。南側を高圧電線による攪乱を受けており，また，北側は調査区外に続き，詳細は不明である。ＳＩ－００６と同様に覆土の埋土状態から竪穴住居跡と推定した。出土遺物は土師器の小破片が数片出土したのみであった。

ＳＤ－００１（第３・５図　図版４）

２Ｂ-70から検出された。南側は高圧電線による攪乱を受け，北側は調査区外に続くため詳細は不明である。覆土の状況から中世以前の遺構と推定される。底面は平らでなく，中央から壁に向かって緩やかに立ち上がる。出土した遺物は土師器片が数片のみであった。

第２節　出土した遺物

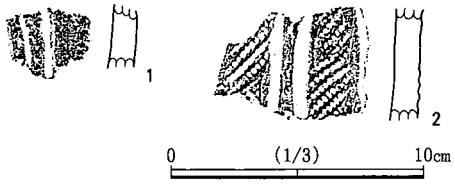
１　縄文土器（第６図，図版５・７）

１はＳＩ－００３から出土した縄文土器の胴部破片である。懸垂文がみられ，縄文が施されている。胎土は砂質である。焼成は普通である。

２はＳＩ－００５から出土した縄文土器の胴部破片である。懸垂文がみられ，１と同様に縄文が施されている。胎土は砂質である。焼成は普通である。

２　土師器（第７～９図，図版６・７）

１はＳＩ－００１から出土した高杯形土器で杯部が遺存する。内面の色調は暗赤褐色で，外面は暗黄褐



第６図　縄文土器拓影図

色を呈する。口径は14.7cm，遺存高5.2cmである。整形・調整は外面はヘラケズリを施し，内面はナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。摩滅している。脚部を欠損してから杯のみを再使用していたと考えられる。

２はＳＩ－００１から出土した高杯形土器で杯部が遺存する。内面の色調は暗赤褐色で，外面も暗赤褐色を呈する。口径は復元で13.7cm，遺存高3.5cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。外面には輪積痕があり全体に摩滅している。

３はＳＩ－００１から出土した手捏ね土器で約1/3が遺存する。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を呈する。口径は復元で5.5cm，底径は復元で6.1cm，遺存高は３cmである。整形・調整は内外面ともナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。内外面に黒斑と輪積痕が見られる。

４はＳＩ－００１から出土した小型壺で底部の1/3が遺存する。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を呈する。底径は復元で3.2cm，遺存高は4.1cmである。整形・調整は外面の胴部下位はヘラケズリで中位はナデを施し，内面はナデを施す。胎土は非常に緻密である。焼成は良好である。内面に黒斑が見られる。底部は厚い。

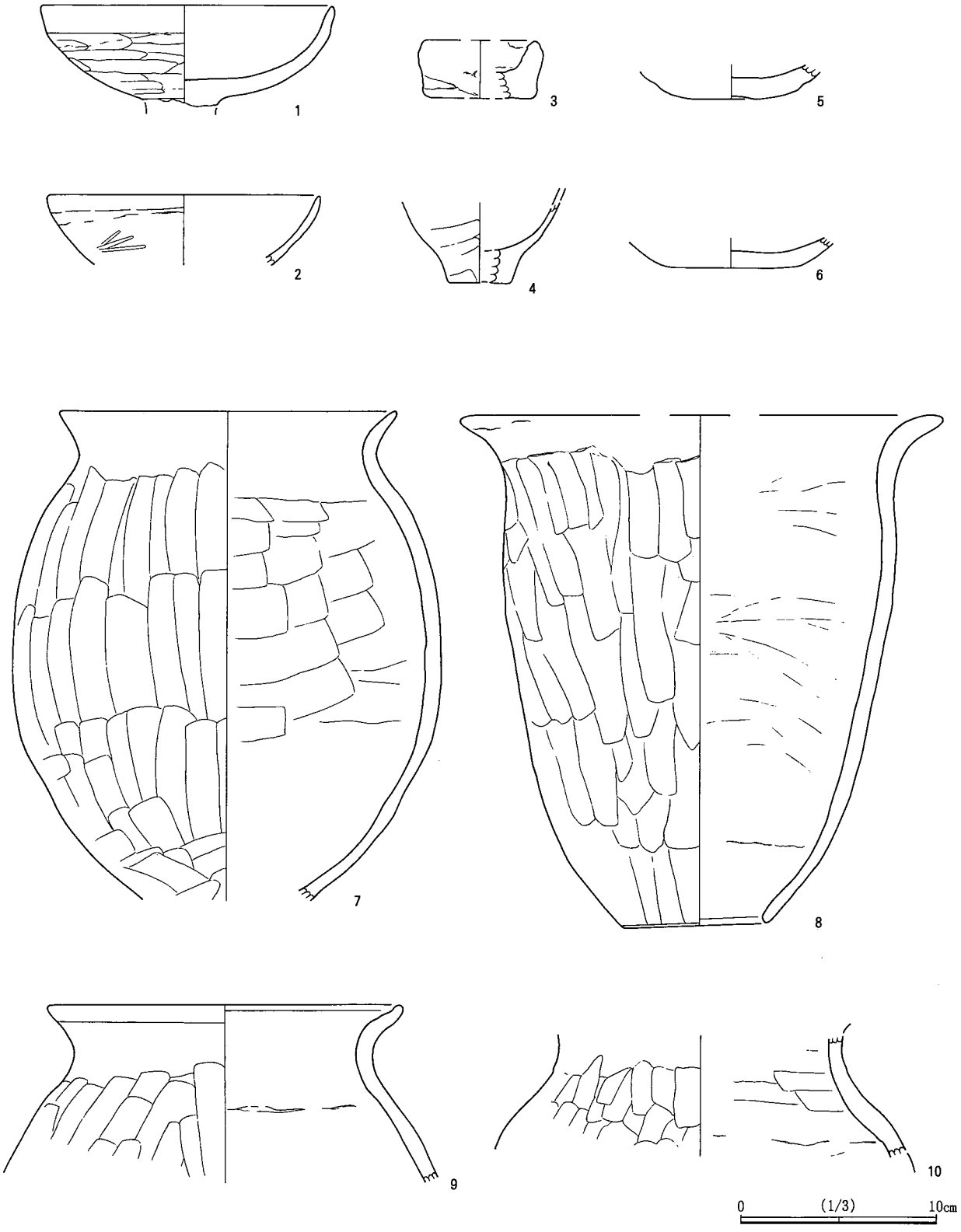
５はＳＩ－００１から出土した坩形土器で底部が遺存する。内面の色調は黒褐色で，外面はにぶい黄橙色を呈する。底径は6.8cm，遺存高は1.7cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキとナデを施し，内面はナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。器面は荒れている。底部中央は若干くぼんでいる。

６はＳＩ－００１から出土した杯形土器で底部が遺存する。内面の色調は橙色で，外面も橙色を呈する。底径は復元で6.8cm，遺存高は1.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリの後にミガキを施す。底部は手持ちヘラケズリを施し，内面はミガキを施す。胎土は緻密である。焼成は良好で，丁寧な作りである。

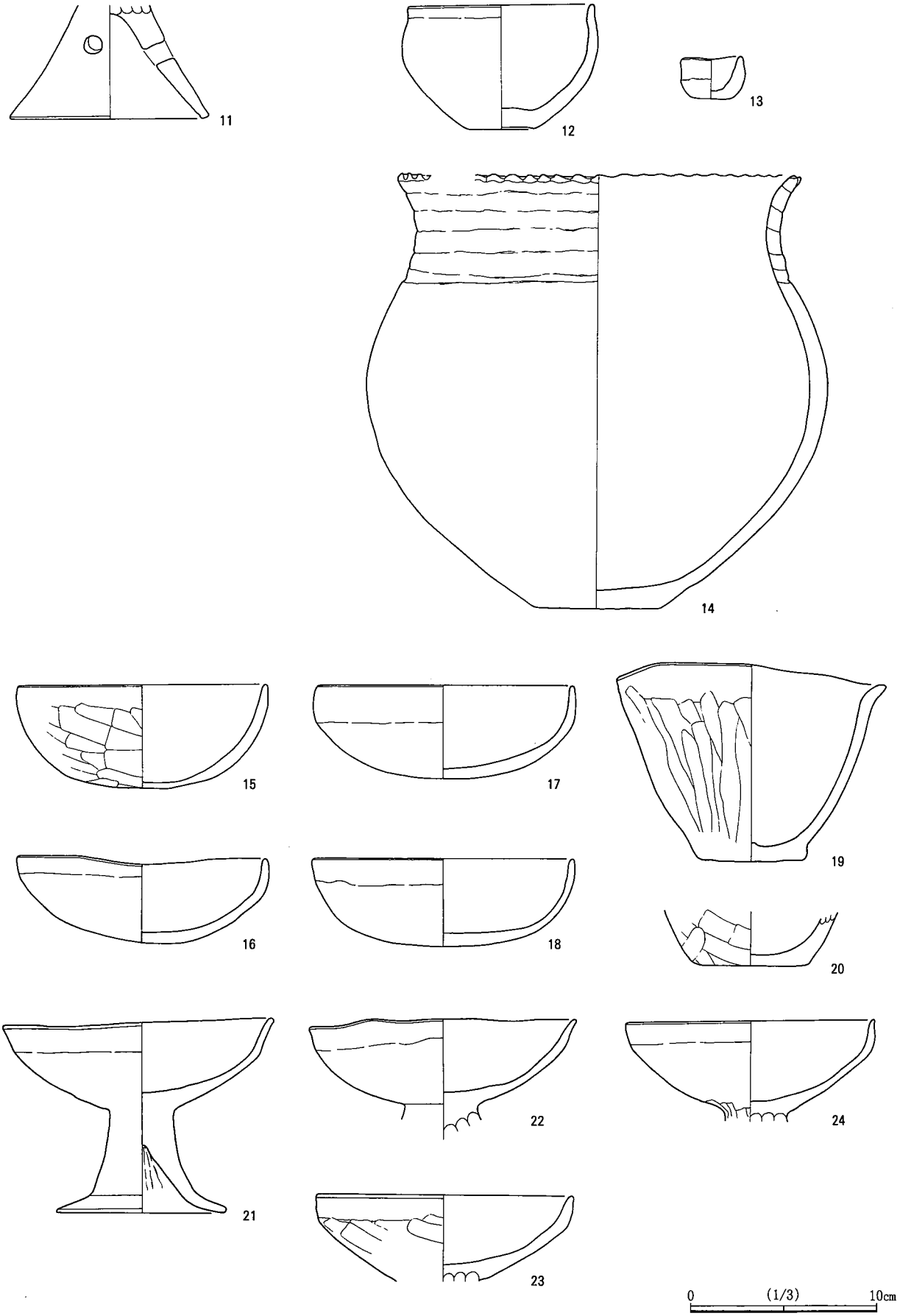
７はＳＩ－００１から出土した甕形土器で約1/3が遺存する。内面の色調は茶褐色で，外面も茶褐色を呈する。口径は復元で16.8cm，遺存高は29.8cmである。整形・調整は外面は胴部ヘラケズリを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。内面に輪積痕が見られる。

８はＳＩ－００１から出土した甑形土器で口縁部の一部を欠くがほぼ完形である。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を呈する。口径は復元で23cm，底径は7.2cm，遺存高は25.8cmである。整形・調整は外面は胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデを施し，内面は粗いヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。輪積痕が見られる。

９はＳＩ－００１から出土した壺形土器で口縁部が遺存する。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を



第７図　出土遺物（1）



第８図　出土遺物（2）

呈する。口径は27.7cm，遺存高は8.7cmである。整形・調整は外面は胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデを施し，内面はナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。内面に輪積痕が見られる。

10はＳＩ－００１から出土した甕形土器で頸部が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面は黄褐色を呈する。口径は復元で14.3cm，遺存高は6.1cmである。整形・調整は外面は胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデを施し，内面はナデを施す。胎土は密だが砂粒を含む。焼成は良好である。

11はＳＩ－００２から出土した高杯形土器で脚部が遺存する。内面の色調は明赤褐色～黒色で，外面は赤褐色を呈する。底径は10.6cm，遺存高は6.1cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。脚部には３孔がある。

12はＳＩ－００３から出土した鉢形土器で約3/5が遺存する。内面の色調は明赤褐色～黒色で，外面は明赤褐色を呈する。口径は9.8cm，底径は3.5cm，遺存高は6.7cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面はナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面とも赤彩を施している。器面は荒れている。

13はＳＩ－００３から出土したミニチュア土器で完形である。内面の色調は赤褐色で，外面も赤褐色を呈する。口径は3.1cm，底径は2.2cm，高さは2.3cmである。整形・調整は外面は口縁ヨコナデを施し，内面はナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。

14はＳＩ－００３から出土した甕形土器で口縁部の一部を欠く。内面の色調は黒色～暗赤褐色で，外面は赤褐色～黒色を呈する。口径は21cm，底径は6.8cm，高さは23.3cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は砂粒を含む。焼成は良好である。口縁部・頸部に輪積痕が見られる。

15はＳＩ－００４から出土した杯形土器で約3/5が遺存する。内面の色調はにぶい黄橙色で，外面もにぶい黄橙色を呈する。口径は復元で13.2cm，遺存高は5.5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。

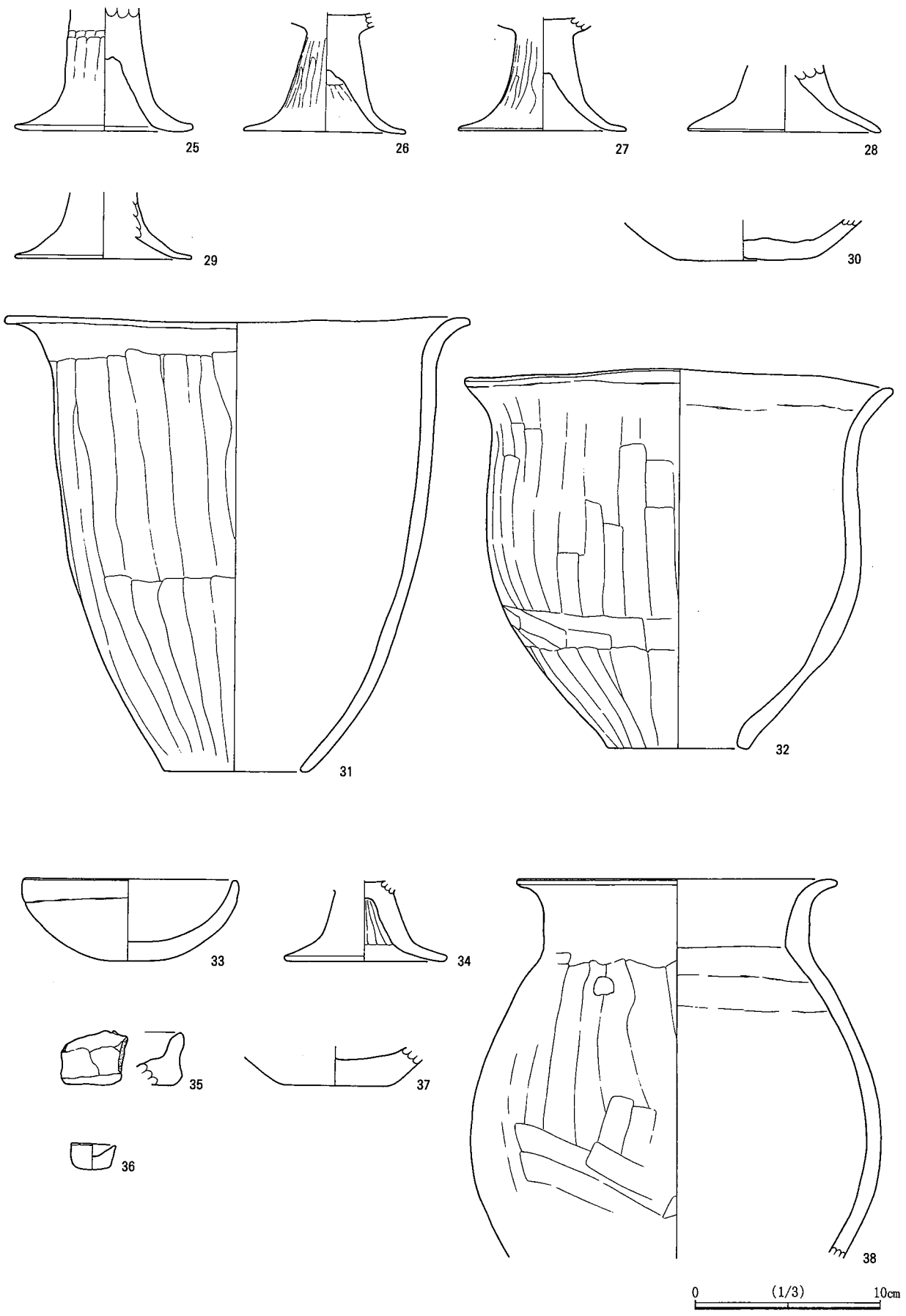
16はＳＩ－００４から出土した杯形土器で約4/5が遺存する。内面の色調は橙色で，外面も橙色を呈する。口径は13.2cm，遺存高は4.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。内面には赤彩を施している。摩滅が大である。

17はＳＩ－００４から出土した杯形土器で約4/5が遺存する。内面の色調は明褐色～橙色で，外面は明赤褐色を呈する。口径は13.6cm，遺存高は５cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキ，口縁部はヨコナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。

18はＳＩ－００４から出土した杯形土器で完形である。内面の色調は赤褐色で，外面も赤褐色を呈する。口径は13.8cm，遺存高は4.7cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内面・外面の上部には赤彩を施している。

19はＳＩ－００４から出土した鉢形土器でほぼ完形である。内面の色調はにぶい黄橙色～黒褐色で，外面もにぶい黄橙色～黒褐色を呈する。口径は14.4cm，底径は5.6cm，高さは10.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒含む。焼成は良好である。

20はＳＩ－００４から出土した杯または鉢形土器の底部で約7/10が遺存する。内面の色調は橙色～黒色



第9図　出土遺物（3）

で，外面は明赤褐色を呈する。底径は６cm，遺存高は2.9cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキを施し，内面はミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内面には赤彩を施している。

21はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で杯部の一部を欠く。内面の色調は明赤褐色で，外面も明赤褐色を呈する。口径は14.4cm，底径は９cm，遺存高は10.4cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。

22はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で杯部の約4/5が遺存する。内面の色調は赤褐色で，外面も赤褐色を呈する。口径は14.2cm，遺存高は6.4cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデとミガキを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。

23はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で杯部が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面は赤褐色を呈する。口径は13.6cm，高さは4.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。

24はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で杯部の約7/10が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面も明赤褐色を呈する。口径は13.2cm，遺存高は5.5cmである。整形・調整は外面はミガキ後ヨコナデを施し，内面はミガキを施す。胎土は緻密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。

25はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で脚部が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面は橙色を呈する。底径は9.6cm，遺存高は6.7cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はヘラケズリ後ナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。摩滅が大である。外面は赤彩を施している。

26はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で脚部が遺存する。内面の色調はにぶい赤褐色で，外面はにぶい黄橙色～にぶい赤褐色を呈する。底径は8.7cm，遺存高は6.4cmである。整形・調整は外面はヘラケズリを施し，内面もヘラケズリを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。

27はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で脚部が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面は明黄褐色を呈する。底径は９cm，遺存高は6.1cmである。整形・調整は外面はヘラケズリを施し，内面はヘラケズリを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。摩滅が大である。

28はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で脚部2/5が遺存する。内面の色調は橙色で，外面も橙色を呈する。底径は8.7cm，遺存高は4.2cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面もミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。

29はＳＩ－００４から出土した高杯形土器で脚部の約1/3が遺存する。内面の色調は明赤褐色で，外面は橙色を呈する。底径は9.4cm，遺存高は3.8cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面もミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。

30はＳＩ－００４から出土した壺形土器の底部片で約1/3が遺存する。内面の色調は灰黄褐色で，外面は黒褐色を呈する。底径は7.6cm，遺存高は2.2cmである。整形・調整は外面はヘラケズリを施し，内面もヘラケズリを施す。胎土は密である。焼成は良好である。底部中央部はくぼんでいる。

31はＳＩ－００４から出土した甕形土器で口縁の一部を欠くがほぼ完形である。内面の色調は明赤褐色～黒色で，外面も明赤褐色を呈する。口径は24.8cm，遺存高は24.5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密であるが，砂粒・赤茶色粒を含む。焼成は良好

である。

32はＳＩ－００４から出土した甑形土器で口縁の一部を欠くがほぼ完形である。内面の色調はにぶい黄橙色～橙色で，外面はにぶい黄橙色～明赤褐色を呈する。口径は22.8cm，遺存高は20.4cmである。整形・調整は外面はタテ方向ヘラケズリ後ヘラナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。

33はＳＩ－００５から出土した杯形土器でほぼ完形である。内面の色調はにぶい赤褐色～黒色で，外面はにぶい赤褐色を呈する。口径は11.3cm，高さは4.4cmである。整形・調整は外面はミガキを施し，内面もミガキを施す。胎土は密である。焼成は良好である。内外面ともに赤彩を施している。底部は丸底である。

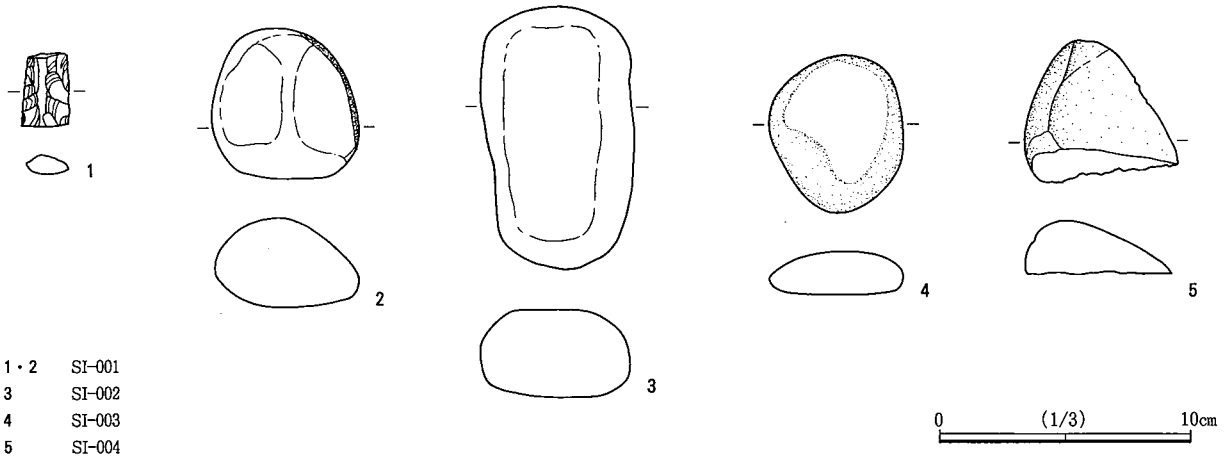
34はＳＩ－００５から出土した高杯形土器で脚部が遺存する。内面の色調はにぶい赤褐色で，外面はにぶい黄橙色を呈する。底径は8.7cm，高さは4.2cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。外面には赤彩を施している。摩滅が大である。

35はＳＩ－００５から出土した手捏ね土器で約1/3が遺存する。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を呈する。底径は復元で３cm，高さは2.8cmである。整形・調整は外面はナデを施し，内面もナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。

36はＳＩ－００５から出土した手捏ね土器でほぼ完形である。内面の色調は黄褐色で，外面も黄褐色を呈する。口径は2.35cm，底径は1.6cm，高さは1.4cmである。整形・調整は外面はナデを施し，内面もナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。

37はＳＩ－００５から出土した甕形土器の底部で約9/10が遺存する。内面の色調は明褐色からにぶい黄橙色で，外面は橙色を呈する。底径は6.2cm，遺存高は20.1cmである。整形・調整は外面はナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密で，赤茶色粒を含む。焼成は良好である。

38はＳＩ－００５から出土した甕形土器で約2/5が遺存する。内面の色調はにぶい橙色～黒褐色で，外面は黒褐色を呈する。口径は17cm，遺存高は20.4cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ヨコナデを施し，内面はヘラナデを施す。胎土は密である。焼成は良好である。



第10図　出土遺物（4）

第２表　出土遺物観察表

図版番号	掲載番号	写真番号	実測番号	遺構番号	遺物番号	器種・器形	色調 内面	色調 外面	遺存状態	単位：cm，（ ）は復元値 口径	底径	器高・残存高	整形・調整 外面	整形・調整 内面	胎土	焼成	備考
6－1	32	35	SI-003	9	縄文		懸垂文	破片						砂質	普通	
6－2	32	36	SI-005	16	縄文		懸垂文	破片						砂質	普通	
7－1	8	8	SI-001	52	高坏	暗赤褐色	暗黄褐色	杯部	14.7		(5.2)	ヘラケズリ	ナデ	密で，赤茶粒を含む	良好	外面赤彩，摩滅大，脚部を欠損してから杯のみ使用していたか？
7－2	9	13	SI-001	54	高坏	暗赤褐色	暗赤褐色	杯部	(13.7)		(3.5)	ミガキ	ミガキ	密で，赤茶粒を含む	良好	内外面赤彩，外面に輪積痕あり，全体に摩滅
7－3		39	SI-001	55	手捏ね土器	黄褐色	黄褐色	3/10	(5.5)	(6.1)	3.0	ナデ	ナデ	密で，赤茶粒を含む	良好	内外面黒斑，輪積痕あり
7－4	10	44	SI-001	47	小型壺	黄褐色	黄褐色	底部1/3		(3.2)	(4.1)	胴部下位ヘラケズリ中位ナデ	ナデ	非常に緻密	良好	内面黒斑，底部は厚い
7－5		46	SI-001	29	壺	黒褐色	にぶい黄橙色	底部		6.8	(1.7)	ヘラケズリ後ミガキ，ナデ	ナデ	密，赤茶粒を含む	良好	器面荒れ大，底部外面中央くぼむ
7－6		47	SI-001	45	杯	橙色	橙色	底部		(6.8)	(1.6)	ヘラケズリ後ミガキ，底部手持ちヘラケズリ	ミガキ	緻密	良好	丁寧な作り
7－7	31	9	SI-001	53	甕	茶褐色	茶褐色	1/3	(16.8)		(29.8)	胴部ヘラケズリ	ヘラナデ	密で，赤茶粒を含む	良好	内面に輪積痕が見られる
7－8	5	7	SI-001	51	甕	黄褐色	黄褐色	ほぼ完形	(23.0)	7.2	25.8	胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ	粗いヘラナデ	密で赤茶粒を含む	良好	輪積痕が見られる
7－9	6	6	SI-001	50	壺	黄褐色	黄褐色	口縁部	27.7		(8.7)	胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ	ナデ	密で赤茶粒を含む	良好	内面に輪積痕が見られる
7－10	7	5	SI-001	27	甕	明赤褐色	黄褐色	頸部残存	(14.3)		(6.1)	胴部ヘラケズリ，口縁部ヨコナデ	ナデ	密だが砂粒を含む	良好	
8－11	29	40	SI-002	6	高坏	明赤褐色～黒色	赤褐色	脚部		10.6	(6.1)	ミガキ	ヘラナデ	密	良好	外面赤彩，３孔あり
8－12	28	16	SI-003	2	鉢	明赤褐色～黒色	明赤褐色	6/10	9.8	3.5	6.7	ミガキ	ナデ	密	良好	内外面赤彩，器面荒れ大
8－13	30	15	SI-003	1	ミニチュア	赤褐色	赤褐色	完形	3.1	2.2	2.3	口縁部ヨコナデ	ナデ	密	良好	
8－14	1	14	SI-003	3	甕	黒色～暗赤褐色	赤褐色～黒色	口縁部の一部を欠く	21.0	6.8	23.3	ミガキ	ヘラナデ	砂粒を含む	良好	口縁部・頸部に輪積痕が見られる
8－15	11	17	SI-004	2	杯	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	3/5	(13.2)		5.5	ヘラケズリ後ナデ	ヘラナデ	密	良好	
8－16	19	22	SI-004	7	杯	橙色	橙色	8/10	13.2		4.6	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラナデ	密，赤茶粒を含む	良好	内面赤彩，摩滅大
8－17	17	19	SI-004	12	杯	明褐色～橙色	明赤褐色	4/5	13.6		5.0	ヘラケズリ後ミガキ，口縁部ヨコナデ	ヘラナデ	密	良好	内外面赤彩
8－18	20	23	SI-004	34	杯	赤褐色	赤褐色	完形	13.8		4.7	ヘラケズリ後ヨコナデ	ミガキ	密	良好	内面・外面上部赤彩
8－19	13	24	SI-004	12	鉢	にぶい黄橙色～黒褐色	にぶい黄橙色～黒褐色	ほぼ完形	14.4	5.6	10.6	ヘラケズリ後ミガキ	ヘラナデ	密，赤茶粒を含む	良好	
8－20	25	43	SI-004	35	杯or鉢	橙色～黒色	明赤褐色	7/10		6.0	(2.9)	ヘラケズリ後ミガキ	ミガキ	密	良好	内面赤彩
8－21	14	25	SI-004	9	高坏	明赤褐色	明赤褐色	杯部の一部を欠く	14.4	9.0	10.4	ヘラケズリ後ヨコナデ	ミガキ	密	良好	内外面赤彩
8－22	18	21	SI-004	10	高坏	赤褐色	赤褐色	杯部8/10	14.2		(6.4)	ヘラケズリ後ナデ・ミガキ	ヘラナデ	密	良好	内外面赤彩
8－23	12	20	SI-004	11	高坏	明赤褐色	赤褐色	杯部	13.6		4.6	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラナデ	密	良好	内外面赤彩
8－24	16	18	SI-004	4	高坏	明赤褐色	明赤褐色	杯部7/10	13.2	－	(5.5)	ミガキ後ヨコナデ	ミガキ	緻密	良好	内外面赤彩
8－25	22	27	SI-004	5	高坏	明赤褐色	橙色	脚部		9.6	(6.7)	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラケズリ後ナデ	密	良好	摩滅大，外面赤彩
9－26	15	28	SI-004	27	高坏	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色～にぶい赤褐色	脚部		8.7	(6.4)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密	良好	外面赤彩
9－27	21	26	SI-004	5	高坏	明赤褐色	明黄橙色	脚部		9.0	(6.1)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密	良好	外面赤彩，摩滅大
9－28	23	41	SI-004	19	高坏	橙色	橙色	脚部4/10		8.7	(4.2)	ミガキ	ミガキ	密	良好	外面赤彩
9－29	24	42	SI-004	17	高坏	明赤褐色	橙色	脚部3/10		9.4	(3.8)	ミガキ	ミガキ	密	良好	外面赤彩
9－30		62	SI-004	3	底部	灰黄褐色	黒褐色	3/10		(7.6)	(2.2)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密	良好	
9－31	2	30	SI-004	36	甕	明赤褐色～黒色	明赤褐色	口縁の一部を欠く	24.8		24.5	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラナデ	密，砂粒・赤茶粒を含む	良好	
9－32	3	29	SI-004	26	甕	にぶい黄橙色～橙色	にぶい黄橙色～明赤褐色	口縁の一部を欠く	22.8		20.4	タテヘラケズリ後ヘラナデ	ヘラナデ	密，赤茶粒を含む	良好	
9－33	26	31	SI-005	14	杯	にぶい赤褐色～黒色	にぶい赤褐色	ほぼ完形	11.3		4.4	ミガキ	ミガキ	密	良好	内外面赤彩，底部は丸底
9－34	27	45	SI-005	6	高坏	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	脚部		8.7	(4.2)	ヘラケズリ後ミガキ	ヘラナデ	密	良好	外面赤彩，摩滅大
9－35	32	38	SI-005	?	手捏ね土器	黄褐色	黄褐色	1/3		(3.0)	2.8	ナデ	ナデ	密	良好	
9－36	32	37	SI-005	12	手捏ね土器	黄褐色	黄褐色	ほぼ完形	2.35	1.6	1.4	ナデ	ナデ	密	良好	
9－37		70	SI-005	19	甕	明褐色～にぶい黄橙色	橙色	底部9/10		6.2	(201)	ナデ	ヘラナデ	密，赤茶粒を含む	良好	
9－38	4	32	SI-005	1	甕	にぶい橙色～黒褐色	黒褐色	4/10	17.0		(20.4)	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラナデ	密	良好	
10－1	32	78	SI-001	6	ポイント			両端を欠損する	長さ 2.9	巾1.8	厚さ 0.9	5.37ｇ				
10－2	32	80	SI-002	7	磨石				長さ 5.9	巾5.8	厚さ 3.5	165.15ｇ				
10－3	32	79	SI-002	4	磨石				長さ 10.3	巾6.0	厚さ 3.4	365.65ｇ				
10－4	32	81	SI-003	8	磨石				長さ 6.2	巾5.2	厚さ 1.7	88.32ｇ				
10－5	32	82	SI-004	30	礫				長さ 5.3	巾5.8	厚さ 2.0	61.53ｇ				

3　石器（第１０図，図版５）

１はＳＩ－００１から出土したポイントである。両端を欠損する。長さ2.9cm，巾1.8cm，厚さ0.9cmである。細身の形態をしており，全面に調整を加えている。両側縁は丁寧な調整を加えているが，摩滅しており不明瞭である。２はＳＩ－００２から出土した磨石である。長さ5.9cm，巾5.8cm，厚さ3.5cmである。重さは165.15ｇである。各面ともに使用による摩滅が見られる。３はＳＩ－００２から出土した磨石である。長さ10.3cm，巾６cm，厚さ3.4cmである。重さは365.65ｇである。各面ともに使用による摩滅が見られる。４はＳＩ－００３から出土した磨石である。長さ6.2cm，巾5.2cm，厚さ1.7cmである。重さは88.32ｇである。使用による摩滅が見られる。５はＳＩ－００４から出土した礫である。長さ5.3cm，巾5.8cm，厚さ２cmである。重さは61.53ｇである。礫はまず半裁した後に1/2に割っている。特に摩滅や打痕は見られないが出土遺物の中で数少ない加工品と思われるため図化した。

第3章　まとめ

「千葉南総中遺跡」発掘調査報告書では，雪解沢遺跡出土の旧石器時代の遺物が掲載されている。しかし，（財）千葉県文化財センターが調査を実施した「雪解沢遺跡」の調査においては，旧石器時代の遺物の出土は報告されていない。今回の発掘調査においては，下層の確認グリッドを設定し調査を実施したが，遺物は出土されなかった。

縄文時代の遺物は，第６図１・２に図示した縄文時代中期の土器片２点と，ＳＩ－００１住居跡の覆土からポイントが出土しているが，遺物はほかには発見されなかった。さきにあげた「雪解沢遺跡」「千葉南総中遺跡」には，縄文時代の遺物は掲載されていない。「雪解沢遺跡」の発掘調査報告書では，弥生時代後期中葉から古墳時代前期の住居跡が調査されている。また，県立市原園芸高等学校所蔵の遺物にも当該期の遺物が見られ，この富士台台地には弥生時代後期中葉から古墳時代後期の住居跡の存在が推定されている。

また，「雪解沢遺跡」や県立市原園芸高等学校所蔵遺物に見られる弥生時代後期の遺構は今回の調査では検出されていない。今回の調査区の北方約100ｍで，宅地造成に伴う発掘調査が行われた。ここでは，当遺跡と同様な古墳時代前期の遺物が多量に出土している。このことから，本台地での弥生時代の集落の広がりは，台地の東側に展開しており，台地の西側には墓域が展開していたと推定される。今回の発掘調査では，「雪解沢遺跡」「県立市原園芸高等学校所蔵遺物」と比較すると，やや年代的にくだった時代の遺物が出土している。ＳＩ－００２出土の11の高杯脚部やＳＩ－００３出土の12，14はほぼ同時期である弥生時代後期と思われる。一方，ＳＩ－００４出土の土器群は古墳時代中期から後期に所属する遺物である。

今回の調査区は大変狭い範囲であったが，出土した遺物量は面積に比較して多いことがいえるが，須恵器片の出土が皆無であった事は特記されよう。このように，この富士台台地は各時代の遺構が全面に展開するのではなく，台地東側には弥生時代後期の集落が，西北域には弥生時代後期の墓域が，西域全体には古墳時代前期から後期の集落が展開するものと推定される。

写真図版

江子田遺跡周辺航空写真　1．江子田遺跡　2．南総中　3．女形第一号方形墳

図版 2

調査前全景

調査後全景

SI001全景

SI001遺物出土状況

SI002全景

SI002炭化材出土状況

SI003全景

SI003炭化材出土状況

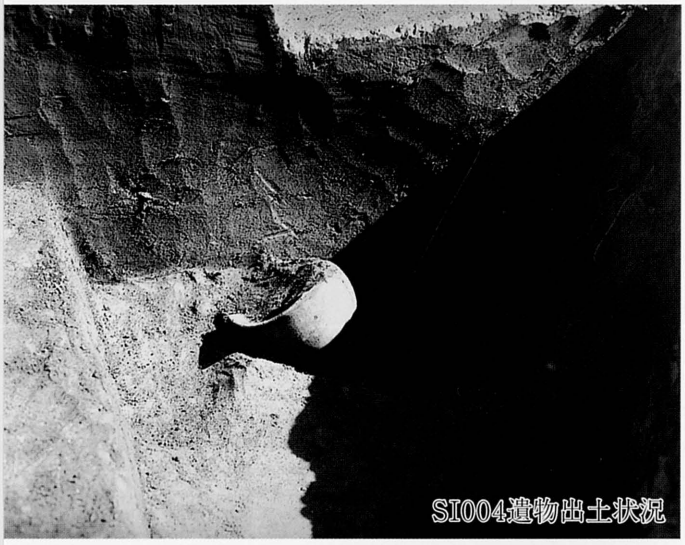
SI003遺物出土状況

SI003遺物出土状況

図版4

SI004全景

SI004遺物出土状況

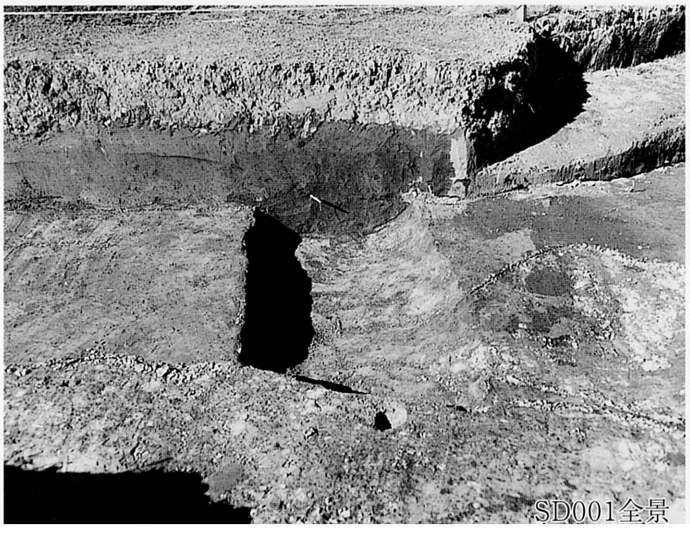

SI004遺物出土状況

SI004遺物出土状況

SI005全景

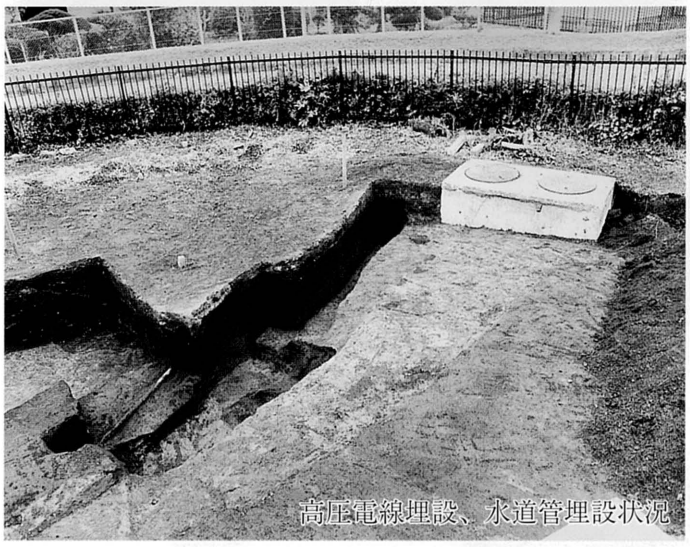
SI006全景

SI007全景

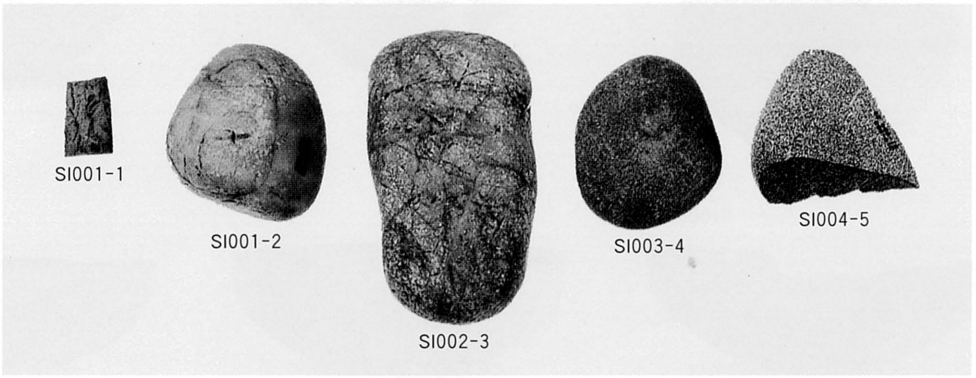

SD001全景

下層確認グリット

旧正門跡の門柱


高圧電線埋設、水道管埋設状況

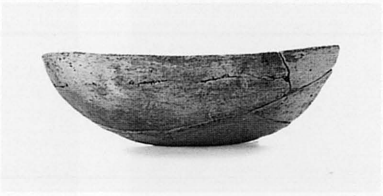
高圧電線埋設、水道管埋設状況



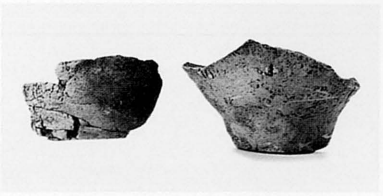
出土遺物　石器

図版 6

SI001-1



SI001-2

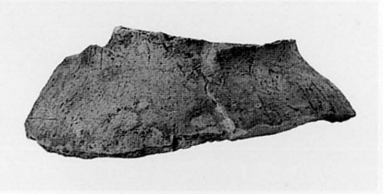


SI001-3　SI001-4

SI001-7

SI001-8

SI001-9



SI001-10

SI002-11

SI003-14

SI003-13

SI003-12

SI004-15

SI004-16

SI004-17

SI004-18

SI004-19

SI004-20

SI004-21

出土遺物（1）土器

SI004-22

SI004-23

SI004-24

SI004-25

SI004-26

SI004-27

SI004-28

SI004-29

SI004-31

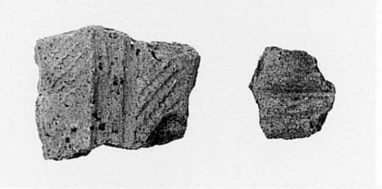
SI004-32

SI005-33

SI005-34

SI005-35 SI005-36

SI005-38



SI003-1 SI005-2

出土遺物（2）土器

報告書抄録

ふりがな	いちはらしえこだいせき
書名	市原市江子田遺跡
副書名	千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事（二期）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	第516集
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	
編著者名	相京邦彦
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　　TEL 043(422)8811
発行年月日	西暦2005年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
江子田遺跡（えこだいせき）	千葉県市原市江子田字小台（ちばけんいちはらしえこだあざしょうだい）305-2ほか	219	083	35° 23′ 29″	140° 09′ 13″	20041001～ 20041025	260㎡	道路拡幅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
江子田遺跡	包蔵地 集落跡	 古墳時代 古代	 竪穴住居跡　７軒 溝　１条	縄文時代土器、石器 古墳時代土師器	

千葉県文化財センター調査報告第516集

市原市江子田遺跡

－ 千葉県立市原園芸高等学校道路拡幅工事(二期工事)に伴う埋蔵文化財調査報告書 －

平成17年３月25日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　千　葉　県　教　育　委　員　会
千葉市市場町1-1
財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印　　刷　　大　和　美　術　印　刷　株　式　会　社
千葉県木更津市潮浜2-1-10